

公 開 文 書

<p>研究課題名 (研究番号 612)</p>	<p>DELICATE study (Duodenal stump leakage after gastrectomy for gastric cancer: a multicenter retrospective study) 胃癌術後十二指腸断端縫合不全に関する多施設調査</p>
<p>当院の研究 責任者(所属)</p>	<p>横山幸生 (消化器外科)</p>
<p>他の研究機関 および各施設の研 究責任者</p>	<p>群馬大学大学院医学研究科 総合外科学 消化管外科 教授 佐伯 浩司</p>
<p>本研究の目的</p>	<p>治癒切除可能胃癌に対する定型手術として、癌占居部位、深達度、リンパ節転移状況などにより幽門側胃切除術、胃全摘術が行われる。施設ごとに様々な再建法が行われるが、幽門側胃切除術後ルーワイ法再建およびビルロートII法再建、胃全摘術後ルーワイ法再建では十二指腸断端は盲端(他の消化管と繋がっていない状態)となる。術後合併症のうち、十二指腸断端縫合不全は発症率1.0-2.5%程度と報告されており、十二指腸内容が活性化された膵液を含むことによりしばしば難治性となり、時に重症感染症や腹腔内出血などの併発から重篤化し致命的経過をたどることがある。</p> <p>過去の報告におけるその発症リスクとして、BMI24 以上、幽門狭窄、術前炎症反応高値、低栄養、心疾患・糖尿病・肝硬変併存等が報告されている。</p> <p>本研究は、頻度は低いが発症すると重篤化することがある十二指腸断端縫合不全に対して多施設調査を行うことで、十二指腸断端縫合不全発症の有無と患者背景・十二指腸切離法/補強の有無・周術期成績との相関から、十二指腸断端縫合不全発症のリスクファクターを明らかにすること、また十二指腸断端縫合不全発症例の詳細について予後不良因子の検索、治療内容の詳細な検討を行うことで発症後の治療方針について考察することを目的とした。</p>
<p>調査データ 該当期間</p>	<p>承認日～西暦 2025 年 3 月 31 日</p>
<p>研究の方法</p>	<p>KSCC 会員施設、群馬県内の地域がん診療連携拠点病院および群馬県がん診療連携推進病院とされる施設、その他日本国内の協力可能施設に対して、対象期間における胃癌術後十二指腸断端縫合不全に関するアンケート調査を実施し、その結果を集積、解析する。</p>
<p>個人情報の 取扱い</p>	<p>アンケート調査の調査用紙にはカルテ番号、氏名、住所、電話番号など個人を特定できる情報は記載しない。群馬大学総合外科学で集計したデータはデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者は個人情報を閲覧することができない。また、本研究の結果を公表(学会や論文等)の際には、個人が特定できる情報は含まれない。</p>

本研究の資金源 (利益相反)	本研究に資金は使用しない。
お問い合わせ先	熊本市民病院 消化器外科 横山幸生 096-365-1711
備 考	